よく耳にするあの放送

沖縄県　伊是名中学校　三年　諸見　利音

「伊是名村役場から節水のお知らせです。」

最近このような放送をよく耳にする。最初聞いたときは「へぇ～そうなんだ。」とあまり実感がなく軽く流していたが、新聞や何度も放送を聞く度にこれは他人事ではないと思った。

私の中で水は当たり前であり、無限だと思っていたが、様々な体験をしたことで水は無限ではないと分かった。

それを実感したのはプールの授業が無くなったことだ。一日のプールの使用量は約四十五万リットルだが伊是名村では島全体の供給量が間に合わず、生活用水を優先させるため大量に水を使うプールは真っ先に打ち切られたのだ。前年度まで当たり前に使っていたプールが出来ないことにとても衝撃を受けたと同時に水ってなくなるものなのだと初めて焦った。

そして、水が無くなってしまったら、伊是名のさとうきびや米などの特産物に影響が及ぶのではないかと考えた。

二〇二三年の八月にあった台風で、沖縄県全域で断水が起こった。もちろん私が住人でいる伊是名村も例外ではなかった。そのためトイレに行く回数を減らすためあまり水を飲まないようにしたり、風呂に入らず汗拭きシートなどで拭いたりした。今まで安心・安全に暮らしていたのに、断水したことで、脱水症状や皮膚炎などにならないか心配もあった。

十日ほど経った頃、水道から水が出たとき水があることに感謝と安心感が出てきた。

そして今、追い打ちをかけるように、ダムの貯水率が下がった。その理由を役場に勤めている父に聞いてみた。

その理由は次の通りだった。前の水は、海水から真水に変えるため石灰が入っており、あまり生活用水としての基準がギリギリだった。そのため、料理に使う水は購入する人が多かった。それを改善するために現在はダムの水も取り入れ以前より安心して美味しく飲めるようになった。しかし、晴天が続き供給が間に合わない可能性があるということが分かった。

そこで、ふと放送と台風を思い出した。このままいけば台風の時と同じように断水しかねない、またあの辛かった経験をしなければいけないと不安に駆られた。

これまでの体験や話を聞いて、水は無限ではないし、水が使えるのは限度があるということを凄く感じた。そして、村民が飲めるように頑張って作ってくれたものを無駄にできないと感謝を強く感じ、これからの水の使い方について改めて考えさせられた。

「伊是名村役場から節水のお知らせです。」

この放送を聞く度に台風の経験を思い出している。晴天が続くとまたこの放送は流れてくるだろう。再び台風のような経験をしないためにも、これからは、風呂に入る時間を減らしたり、こまめに水を止めたりと工夫をして節水を心掛けていきたい